

## 編集委員会の編集方針と編集委員の紹介

編集委員長 川上 裕司

(株)エフシー総合研究所 環境科学研究室  
〒140-0002 東京都品川区東品川3-32-42-6F  
Kawakami@fcg-r.co.jp

### 年2回の定期刊行化

本年1月より編集委員長の大任を仰せつかった川上裕司です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

先ず、私に課せられた使命は会誌の定期刊行化だと肝に命じております。会員数600名を数える本学会であれば、年4回の発行が可能かとも思いますが、先ずは年2回(6月1日と12月1日)確実に発行することを目指します。本誌第10巻第1号は予定通り6月1日に発行することができましたが、次号も予定通り12月1日に発行するために編集委員会一同、奮闘努力してまいります。また、新たに印刷業務をお引き受けいただいた大和綜合印刷(株)の担当者(大森直久氏)はフットワークよく通ってくださり、今後心強いパートナーとなりそうです。

### 装丁デザインは浮遊微粒子

さて、全面的に刷新した本誌の感想はいかがでしょう？恐らく賛否両論あるかと存じます。本学会の会員は様々な研究分野の研究者が集まっており、各自が育ってきた学会によって学会誌の装丁や論文の書式も様々であろうことが想像されます。私自身、14の学会や研究会に所属しておりますが、それぞれに個性があります。

会誌の装丁デザインについては、3種類の候補から編集委員会で協議の末、決定したものです。「何だ？この水玉模様は！」という酷評も聞こえてきそうですが、このデザインは室内環境中に浮遊する化学物質や微生物の『Particle』をイメージしたものです。本学会の出発点であり、現在も化学物質の研究者が多く所属する本学会にふさわしい装丁を熟慮しての結果です。皆様に愛着をもっていただけますことを期待しております。

### ISSN番号と原稿の種類

定期刊行化に伴い「ISSN番号」を取得いたしました。これにより本誌は定期刊行物として認められま

した。また、同時に今後も定期的に刊行する義務を負うことになりました。末永く本誌が定期刊行されますことをここに祈念する次第です。

今回、投稿規程を改定し、掲載する原稿を9つに分類しました。A) 原著論文, B) 短報論文, C) 総説, D) 解説, E) 講座, F) 技術資料, G) 調査資料, H) 用語解説, I) 室内環境学関連情報です。「原著論文と短報論文」につきましては、これまで以上に質の高い研究論文を掲載するよう努めます。「総説・解説・講座」につきましては、会員外の専門研究者にも積極的に原稿依頼をお願いしていきます。「技術資料と調査資料」は、会員にいち早く伝えたい測定法や調査の結果を掲載するためのものです。本誌にも、微生物ワーキンググループの合同実験の結果を「技術資料」として掲載していますので参考にしてください。「用語解説」は、専門の研究者にとっては常識だけれども幅広い知識を必要とする本学会の会員にとっては有益になるとされる専門用語(あるいは新用語や話題の用語)を解説するページです。編集委員会では連載化を検討中です。「室内環境学関連情報」は、会員に有益な情報を掲載するもので、海外の室内環境情報なども掲載する予定です。

今回、新たに「会員の声(通称：薫風)」のページを設けました。毎回4～6名の会員に1ページ程度の原稿を依頼して執筆していただきます。室内環境に関すること、本学会に対するご意見、仕事や研究テーマのことなど何でも結構です。本誌に掲載された第1回目の会員の声はどれも力作ばかりで、「薫風」にふさわしい内容になっています。

引用文献の書き方は、従来の文中の登場順に書く方式に加えて、著者のABC順で記載する方式でも良いことになりました。これは様々な研究分野の方が執筆しやすくするためです。その他、詳細は「改訂投稿規程」のページをご参照ください。

### 編集方針は迅速かつ丁寧な著者への対応

投稿いただいた原稿は、原則として全て掲載するように編集作業を進めます。「原著論文と短報論文」の査読は2名(必要に応じて3名)の専門研究者にお願いします。そして、査読の回数は原則2回といたします。これは「著者→編集委員会→査読者→編集委員会→著者」を1回とカウントして2回という意味です。今号からは、査読者名を著者に対して匿名にする従来の慣習を廃止いたしました。著者に査読者の氏名と所属を伝えることをご了解いただいた方に、査読をお願いしています。今後もこの方針でいきますが、「匿名でなければ査読をしない」との意思を表明された方には、残念ながら査読をお願いいたしません。査読者には「Rejectすることを目的とするのではなく、Acceptするにはどこを修正した方が良いかを助言する姿勢で査読すること」を編集委員会としてお願いしていきます。また、「1回目の査読を重視して、指摘すべき箇所の読み落としがないようにしていただきたい旨。著者が書き改めた2回目の原稿に対しては、1回目の査読で指摘した箇所以外の箇所を新たに指摘することは原則止めていただいた旨。」査読者をお願いしていきます。

この方針を読まれて、恐らく反感をもたれる方もいらっしゃるかと存じます。そこで、どうしてそのような方針でいくのかその理由を列記いたします。

#### ①査読者の過剰な審査意識の軽減

査読をお願いする研究者は、当然のことながら著者に近い研究分野の方になります。また、その道の大家と呼ばれる専門研究者や年配の研究者に査読をお願いすることが多々あります。このような場合、往々にして査読者が著者に対して威圧的な態度で査読結果を書かれることがあります。「このように書き改めるべきである」、「このようにしなさい」、「このようにすべきだ」、「意味不明!」、「このような結果に価値を認めません」など。匿名を良いことに、辛辣な表現を平気で使われる方も残念ながらいます。そして、私の指摘に従って修正しなければ、この論文は絶対にAcceptさせないといった威圧感を著者に与える記述で締めくくられる場合もあります。本来、著者と査読者に上下関係などないはずですが。大会の口頭発表の会場では、座長を仲介者として、演者と質問者がQ&Aのやりとりをします。この場合、質問者は「所属と氏名」を名乗った上で質問するのが常識です。「私の顔を知らなければモグリだ」と言わんば

かりに「所属と氏名」を名乗らずに、横柄な態度で質問する大先生(?)を時々見かけることがあります。世間的には非常識と言わざるを得ません。

最も大切なことは、掲載される予定の論文の価値を判断するのは査読者ではなく、会員やその他多くの読者(研究者)であることをご理解いただきたいと存じます。

#### ②査読者の意見に対して、著者が真摯に受け止めることを期待

著者側から見ると、査読者が誰であるかを薄々感じながら査読結果を読む場合もありますし、全く相手が判らずに「辛辣な意見や的外れな指摘」に対して、怒り心頭といった経験が皆さんにも1度や2度あるのではないのでしょうか? 特に、自信を持って書いた論文に対して、難癖つけられていると感じる査読結果(記述)に対しては、端から修正する気になどなれず、「どのように反論の文章を書こうか」と考えることもあるはずですが。

ここで先ず著者にとって大切なことは、査読者の意見に真摯に耳を傾け、修正すべき箇所は素直に修正して、査読して戴いたことに対して感謝の意を表することではないかと考えます。この場合、見えない相手よりも誰が査読をしてくれたのか判った方が返って素直になれるのが、人情ではないでしょうか?

自信を持って書いた論文ほど、他人が読むと「思い込みが激しい」と感じることもあるはずですが。もし、査読者の意見に対して反論があり、冷静に考えても指摘された箇所を修正する必要がないと判断したならば、その旨、査読者と担当編集者に判り易く説明する文章を添付することを著者をお願いしていきます。また、編集委員会を通さずに著者が査読者に直接意見を送るようなことは厳禁であると著者をお願いしていきます。

#### ③担当編集委員の中立的立場でのAccept決定

もっとも無能な編集委員は、著者の意見と査読者の意見を全く読まず(理解しようともせず)に、事務的に原稿と査読表を郵送するだけの編集委員だと思います。4回も5回もたらい回しにされて、最後には投稿論文を取り下げってしまう(または、別の学会に投稿し直す)ような経験はありませんか?

我々、編集委員会では投稿された論文に対して、必ず担当編集委員を決め、著者と査読者の両者の意見に耳を傾けて中立的立場でAcceptを決定していきます。

著者に対して査読者の氏名を知らせることにより、著者と査読者の双方が紳士的な態度でやり取りしていただき、編集委員は中立的な立場で質の高い論文が完成するお手伝いをする。このような図式により、「室内環境」誌への投稿数が増え、よりハイレベルな学会誌として成長していくことを切に願う次第です。

以下に編集委員の専門分野と所属学会を列記いたします。室内環境学に関わる幅広い分野の投稿論文

に対して、対応可能な会員を編集委員として招集いたしました。各委員とも多くの学会に所属しており、外部の研究者との繋がりがあるので、投稿論文の内容に合った査読者を探すことが容易です。

会員の皆様の積極的な投稿を心よりお待ちしております。尚、論文投稿や編集に関してのご質問は、直接川上宛にお寄せいただけましたら幸いです。

以上、よろしく願いいたします。

### 編集委員の紹介

川上 裕司：博士(農学)，専門分野(昆虫病理学・家屋害虫学・環境微生物学)

所属学会・研究会(日本衛生動物学会，日本マイコトキシン学会，Society for Invertebrate Pathologyなど14団体に所属)

松木 秀明：博士(医学)，専門分野(公衆衛生学・環境保健学)

所属学会・研究会(日本公衆衛生学会，大気環境学会，日本アレルギー学会など15団体に所属)

須山 祐之：博士(歯学)，専門分野(公衆衛生学・環境衛生学)

所属学会・研究会(日本衛生学会，日本産業衛生学会，日本口腔衛生学会など12団体に所属)

柳 宇：博士(公衆衛生学，工学)，専門分野(建築環境工学・建築設備学・環境微生物学)

所属学会・研究会(日本建築学会，空気調和衛生工学会，日本防菌防黴学会など7団体に所属)

熊谷 一清：博士(環境学)，専門分野(環境学・建築環境工学・公衆衛生学)

所属学会・研究会(日本臨床環境医学会，化学工学会，Indoor Air Quality Associationなど16団体に所属)

長谷川 あゆみ：修士(家政学)，専門分野(化学分析・有機組成分析及び構造解析)

所属学会・研究会(環境ホルモン学会，日本質量分析学会，American Chemical Societyなど8団体に所属)

武廣 絵里子：専門分野(建築材料施工/仕上材料，建築環境工学/空気質・空気清浄)

所属学会・研究会(日本環境化学会，日本分析化学会，日本建築仕上学会など9団体に所属)